

令和3年度事業別報告書

1 総務

(1) 法人運営

① 一般会員・賛助会員の加入状況

自治会、福祉委員と連携をとって一般会員、賛助会員の加入促進を行ったが、自治会加入率の低下などにより、一般会費が減少傾向にある。

なお、賛助会費に関しては、令和2年度と同様に新型コロナウイルス感染症が事業や生活に影響し、会費支払いが難しい事業所や個人は申し出てもらい、訪問はしないこととした。

一般会費 200円
賛助会費 1,000円

種別		令和2年度	令和3年度	対前年度比
一般会費	世帯	6,481世帯	6,117世帯	△364世帯
賛助会費	企業・個人	1,385口	1,375口	△10口

② 事務局体制の整備

- ・朝礼を毎日行い、職員間の情報共有と業務連携を図った。
- ・新型コロナウイルス感染症に対応するため、職員の健康管理に努め、毎朝、体調管理シートでの報告を求めた。
- ・地区担当制を導入し、地域に出向くことにより、社協職員としての知識の蓄積、事業周知の取り組みができた。

③ 会務の運営

理事会・評議員会の開催

理事会 年3回開催 書面決議1回 評議員会 年2回開催 書面決議1回

○令和3年5月20日提案議事に関する理事会 書面議決

第1号議案 令和2年度事業報告及び収支決算報告並びに監査報告について

第2号議案 役員選任候補者の推薦について

第3号議案 評議員選任候補者の推薦について

第4号議案 評議員選任・解任委員会の開催について

第5号議案 評議員会について

○令和3年6月8日提案議事に関する評議員会 書面議決

第1号議案 令和2年度事業報告及び収支決算報告並びに監査報告について

第2号議案 役員を選任について

○第49回理事会 令和3年6月25日 小豆島町役場本館 大会議室

第1号議案 会長・副会長の選任について

第2号議案 第三者委員の選任について

○第50回理事会 令和4年3月14日 国民宿舎小豆島 ふるさと荘

第1号議案 令和3年度補正予算について

第2号議案 令和4年度事業計画について

第3号議案 令和4年度予算について

第4号議案 社会福祉法人小豆島町社会福祉協議会経理規程の一部改正について

第5号議案 役員等賠償責任保険の契約について

第6号議案 第35回評議員会の招集について

第1号報告 会長の職務執行状況について

○第35回評議員会 令和4年3月30日 小豆島町役場本館 大会議室

第1号議案 令和3年度補正予算について

第2号議案 令和4年度事業計画について

第3号議案 令和4年度予算について

第4号議案 役員等賠償責任保険の契約について

(2) 相談体制の充実強化

① 心配ごと相談所の開設

小豆島町心配ごと相談所設置規定に基づき、町民の日常生活上のあらゆる心配ごと相談に応じ、適切な助言指導を行い、福祉の向上を図った。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症防止のため、池田会場で7回、内海会場で6回開設を見合わせた。

○開設日 内海会場 毎月第2火曜日 午後1時30分～午後3時30分

池田会場 毎月第4火曜日 午後1時30分～午後3時30分

○開設日数 11日

○相談員数 16名

○相談件数 9件

② 介護相談員派遣事業

小豆島町から委嘱を受けた介護相談員が、福祉サービス提供事業所へ出向き、サービスを利用する人の疑問や不満、不安の解消を図るとともに、派遣を受けた事業者における介護サービスの質の向上を図る事業である。しかし、新型コロナウイルス感染症防止のため、各施設で関係者以外立入禁止措置が取られたため、事業は実施できなかった。

(3) 社会福祉大会の開催

3年に1度町内の社会福祉関係者が一堂に会し、これからの社会福祉の在り方について理解を深めるとともに。多年にわたり小豆島町の社会福祉の向上に尽くされた方々を顕彰し、社会福祉事業にご協力をいただいた方に感謝の意を表すための大会実施を計画した。

コロナウイルス感染症の状況が拡大、縮小する中であって、開催準備を行い、開催日や開催方法の模索を続けたが、感染者数の沈静化が見えず、やむ

なく中止の決断を行ったところである。

しかしながら、社会福祉に功績のあった方への顕彰については、地区ごとの少人数開催などにより表彰を行うことができた。

功劳表彰被表彰者

民生委員児童委員功劳

棟保 博 中桐 笑子 中西 明美 柏原 寛子 岡田 弘彦
湊 義照 武部 廣文

社会福祉協議会役員功劳

森 崇 田中 仁 石田 良行

地域福祉活動功劳

橋本 英輔 岡本 恵子 濱本 展子 三木眞優美 藤本 壽
秋田 俵多 安藤マチ子 東 幸人 新茶 善昭

地域福祉事業奉仕活動功劳

馬木ひしお会 南蒲野コスモスの会

感謝状被贈呈者

社会福祉事業協力

国際両備フェリー株式会社 小豆島手延素麺協同組合

(4) 広報活動の推進

本社協の社会福祉を目的とする事業に関する普及、宣伝を行った。

○広報誌「ふくしだより」を年2回発行

- ・ふくしだより第31号 令和3年9月発行
- ・ふくしだより第32号 令和4年4月発行

○町広報誌「しょうどしま」による情報発信

(5) 共同募金運動に協力

小豆島町共同募金委員会の運営及び共同募金運動への支援を行った。

○募金活動期間 令和3年10月1日～令和3年12月31日

○募金実績額 4,909,461円

- ・世帯募金 4,296,100円
- ・法人募金 128,000円
- ・職域募金 252,000円
- ・募金箱 19,758円
- ・自動販売機 204,583円
- ・その他の募金 9,020円

(6) 災害時の対応

① 災害時対応の必要性

近年、地震や台風・豪雨災害が多大な被害を引き起こしており、その中

にあって、災害弱者である高齢者、障害者、子供などが被害にあっていて、このことから、福祉分野においては、災害対策が重要な課題となっている。

② 小豆圏域ネットワーク会議での取り組み

社会福祉法人に責務化された地域における公益的な取組を行うための事業として、災害時における福祉支援に取り組んでいる。今年度では小豆圏域災害V C運営研修を計画したが、延期となっている。

③ 小豆島町社協としての取り組み

本町においては、災害時要援護者をどのように避難させるかの方策が十分に整っておらず、自治会を中心とする取り組みの一助となる「支え合いマップ」作成について研修を受け、今後取り組む計画である。

(7) 関係団体との連携

地域福祉の増進を図るため、民生委員児童委員協議会、老人クラブの事務運営への支援を行った。

- 小豆島町民生委員児童委員協議会事務運営
- 小豆島町民生委員児童委員協議会池田ブロック事務運営
- 小豆島町老人クラブ連合会事務運営
- 内海老人クラブ事務運営
- 池田老人クラブ事務運営

2 地域福祉の推進

(1) 地域福祉推進事業

地域での福祉活動に対する自治会への助成を行った。

- 自治会数 32自治会
- 世帯数 6,224世帯
- 助成金額 1,369,280円 (1世帯当たり220円)

(2) ボランティア活動・福祉教育の推進

① 地域ボランティア活動推進事業

例年、高齢者施設入居者と地域ボランティアとの交流や町内の中学生が社会福祉施設での介護等の体験学習及び高齢者との交流事業を行っているが、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業を実施することができなかった。配食見守りボランティア事業は実施した。

(3) 生活支援コーディネーター事業

日常生活上の支援が必要である高齢者が、住み慣れた地域で生きがいを持って在宅生活を継続していくために必要となる生活支援・介護予防サービスの提供体制を構築するため、小豆島町から受託を受け事業を実施した。基本チェックリスト未回答者や回答内容を精査する必要がある対象者を

戸別訪問し、聞き取り調査を行うことで生活実態の把握を行った。

また、オリーブ健康塾によるボランティアの養成研修や小学生を対象とした認知症サポーター養成講座とこまめ隊養成塾の開催に協力し、認知症の方に対する関わり方やボランティアの育成活動を行った。

(4) 福祉サービス利用援助事業（日常生活自立支援事業）

香川県社会福祉協議会から委託を受け、判断能力が不十分な認知症高齢者や知的障害者、精神障害者、日常生活に不安な人など自らの判断で適切にサービスの選択ができない人を対象に、福祉サービスの利用援助や手続きの代行、利用料の支払い、日常的な金銭管理などの援助を行った。

○新規利用契約者数	2件
○終了件数	1件
○3月末時点での利用者数	13名
○相談支援回数	328回

(5) 生活福祉資金貸付事業

香川県社会福祉協議会から委託事業で、低所得者世帯、障害者世帯、高齢者世帯等に対し資金貸付と必要な相談・支援により世帯の経済的自立や在宅福祉、社会参加の促進を図った。令和2年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症に起因する生活困窮者への支援のための貸付事業である緊急小口資金特例貸付、総合支援資金特例貸付が実施された。貸し付けの実績や相談件数は次の通りである。

○緊急小口資金	3件	189,000円
○福祉費	3件	231,000円
○特例緊急小口資金	19件	3,800,000円
○特例総合支援資金	33件	17,700,000円
○相談件数（特例貸付も含む）	106件	

(6) 生活困窮者自立相談支援事業

香川県からの委託を受け、生活保護に至る前の段階の自立支援策の強化を図るため、生活困窮者に対し、自立に向けて状況に応じた支援を行った。

なお、生活福祉資金総合支援資金特例貸付に関しては、原則、本事業による継続的な支援を受けることが要件となっているため、相談件数が増加している。また、8050問題や子供たちの貧困問題など対応が難しいケースが増えてきており、相談支援手法の習得などスキルアップが求められている。

○新規相談件数	22件
○プラン作成件数	1件

(7) 法人成年後見事業

判断能力が十分でない人の権利擁護を行う成年後見制度を本社協が法人と

して行うもので、令和3年度から取り組んでいる。日常生活自立支援事業から移行したもので、家庭裁判所からの受任、財産調査、金融機関との調整、家庭裁判所への報告など一連の業務を行った。

○受任件数 1件

(8) 香川おもいやりネットワーク事業

社会福祉法人・施設・社会福祉協議会・民生委員児童委員がつながり、地域の課題を解決するためのネットワーク体制づくり、総合相談・支援事業、人材育成、福祉教育の推進を行った。

○相談件数 0件

○現物給付 0件

○フードバンク 6件

3 在宅福祉の推進

(1) 小地域ネットワーク事業

絆バトン、命の笛の配布事業を実施した。

絆バトンについては、サロン活動などにおいて、その活用についての推奨を行い、新たな設置につなげた。

○絆バトン設置数 延 1, 931世帯(3年度 5世帯)

延 2, 711名(3年度 6名)

(2) 一人暮らし高齢者を励ます会

一人暮らし高齢者(77歳以上)を対象に在宅福祉の向上を図るため、集会所等で交流会等を行っているが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、集会在困難となり、開催会場数、参加者ともに減少している。なお、見守りも兼ねプレゼント、弁当の配布は行った。

○第1回(夏の開催)

・開催会場数 2会場

・参加者数 15名

・世話人 22名

○第2回(冬の開催)

・開催会場数 8会場

・参加者数 57名

・世話人 54名

・プレゼント配布数 265個

・弁当配布数 114個

(3) 福祉委員活動事業

福祉委員の活動について、地区代表者を2回開催した。

(4) 防水シート配布事業

民生委員児童委員協力を得て、在宅で寝たきりの方を対象に防水シートの配布を行った。

・配布人数 42名 (配布枚数84枚)

(5) 障がい者配食サービス事業

在宅で食事を作ることが困難な障がい者を対象に、昼食を配達した。

○実施日 毎週月曜日

○利用者数 1名

○配食数 45食

○調理 ともえ

○配達 社協職員

(6) 配食サービス事業

食事を作ることが困難な高齢者世帯に対し、栄養のバランスの取れた食事を提供するとともに、安否確認を行うことを目的とした事業で、小豆島町から事業委託されている。

○利用者数 46名 (令和4年3月末現在)

月曜日 25名

火曜日 24名

水曜日 25名

木曜日 26名

金曜日 33名

○配食数 延 5,890食

(7) 生活支援サービス事業

在宅の高齢者に対し、軽度な日常生活上の援助を行うことにより、自立した生活の継続を図るとともに、要介護状態への進行・悪化を防止することを目的とした事業であり、小豆島町地域包括支援センターのマネジメントに基づき当協議会が委託を受け、実施している。

○利用者数 37名 (令和4年3月末現在)

○支援時間 延 1,622.3時間

(8) 福祉機器貸出事業

車いすの貸出を行なった。

○車いす貸出件数 12件

(9) 葬祭具貸出事業

祭壇の貸出はなかった。